

<宝水ワイナリーボランティア活動>

岩見沢緑陵高等学校ボランティア部

それは、1通のメールから始まった。昨秋、「宝水ワイナリー」へ1通のメールを送った。本校から車で約15分のところにある「宝水ワイナリー」は、2006年6月にワイナリーとしてスタート。2014年に全国公開された映画「ぶどうのなみだ」のロケ地でもある。学校から近い地元このような素晴らしいワイナリーがあることから、「地域の産業の魅力を学ぶ」、「地域に貢献する」ことをテーマに、ぶどう畑のボランティアを通して何かを学ぶことにつながれば、という思いから。しばらくしてから、取締役であり醸造を担当している久保寺祐己さんから返信があった。雪が深々と降る1月末にワイナリーへ伺って打ち合わせ。ぶどう畑は、例年2mを超える積雪に覆われていた。全5回のワイナリーでのボランティア計画を立て、3月に「宝水ワイナリーについて」特別講話を実施。久保寺さんが醸造家を目指したきっかけ、東京から北海道の宝水ワイナリーへ来ることになった話、ワイナリーでの仕事、様々なことを語っていただいた。生徒の目線で、高校生の進路選択の話もして下さった。

6月初旬、さわやかな天気の中「ぶどうの芽かき」を行った。たくさんできた新芽の中から、不要な芽を取り除き芽の制限をすることで養分をいきわたらせる作業だ。生徒たちは、「作業を楽しみながら農業を学びたい」と、興味深く初めての作業に黙々と取り組んだ。7月と8月は、例年のない猛暑の「摘葉・除葉」作業。ぶどう周辺の重なり合った葉を取り除き、風通しを良くしカビによる病気を防ぐ目的で実施。成長を見守りつつ、だんだんとぶどうの実が大きくなっていく過程を実感。生徒の感想は、「もう少し機械を使っているものだと思っていた。今回作業できたのは全体のほんの一部で、ぶどう栽培の大変さがわかった。」9月と10月は、楽しみに待っていた「収穫」。天気予報を見ながらワイナリーと日程調整。秋晴れの天気の中、その年のワインになるぶどうをひと房ずつ丁寧に摘み、カビなどを取り除きながら、ケースに収穫。

生徒たちは、自然の中でぶどうの収穫を通して、ぶどうが成長するまでの過程を学び、貴重な経験ができた。楽しくみんなで作業をしながら、学校生活のことや日常生活のことなどを語り、生徒同士の絆も深まった。地元愛を育み、地域産業の魅力を学び、奉仕活動を行うことで、いつか地元で活躍できる社会人に成長できると信じている。お世話になった「宝水ワイナリー」のスタッフの皆様への感謝の気持ちを忘れず、未来へ羽ばたけることを願って。



